

CV

萩原 朔美 / Sakumi Hagiwara

個展

- 2017年 「萩原朔美の仕事展」前橋文学館
「萩原朔美作品展」art space kimura ASK?
- 2016年 「萩原朔美写真展」Place M / RED photo Gallery / Tokyo Lightroom (東京)
「心の郷愁を撮りたいー100年間の定点観測ー朔太郎・朔美写真展」前橋文学館 (群馬)
- 2014年 「名瀑跡」studio sori (東京)
- 2012年 「朔太郎・朔美写真展 朔太郎が切り取った風景を求めて」前橋文学館 (群馬)
- 2010年 「観覧車」ART SPACE 煌翔 (東京)
- 2003年 「ガラス絵小品展 MOVIE」秀友画廊 (東京)
- 1984年 「萩原朔美写真集出版記念展」ワタリウム美術館オン・サンデー (東京)
「PRINT.VTR.BOX 萩原朔美個展」スペース・ニキ (東京)
「萩原朔美新作コラージュ展」ギャラリーカフェ グレル (東京)
- 1983年 「BLACK&WHITE OF EXHIBITION INTERNATIONALS」東京セントラル絵画館 (東京)
- 1982年 「アップル・イメージの成熟」青画廊 (東京)
- 1981年 「萩原朔美版画展」京都ブラスティックスペース (京都)
- 1980年 「第四回版画個展」青画廊 (東京)
- 1979年 「萩原朔美版画個展」岐阜パルコ・パルコギャラリー (岐阜)
「造本計画・36種類」ギャラリーワタリ (東京)
「Prints Exhibition」青画廊 (東京)
- 1976年 「萩原朔美展 PASSING THROUGH-写真とビデオとシルクスクリーン」ギャラリーワタリ (東京)
「第三回版画個展」ギャラリーワタリ (東京)
- 1975年 「第二回版画個展」ギャラリーワタリ (東京)
- 1974年 「第一回版画個展」JUN アートギャラリー (東京)
「萩原朔美カレンダー展」JUN アートギャラリー (東京)

主なグループ展

- 2017年 「パロディ、二重の声-1日本の一九七〇年代前後左右」東京ステーションギャラリー
- 2016年 「定点撮影写真展」桐蔭学園アカデミウム
「ビデオひろば-1970年代の実験的映像グループ再考」森美術館 (東京)
「Photographic Images and Matter-Japanese Prints of the 1970s」京畿道美術館、釜山市立美術館 (韓国)
「阿佐ヶ谷アートストリート 2016Pureism」阿佐ヶ谷アートストリート (東京)
- 2014年 「福島ビエンナーレ」道の駅あいづ湯川・会津坂下 (福島)
「わが友ウォーホル〜X氏コレクションより」ギャラリーときの忘れ物 (東京)
- 2013年 「書物のエロティックス展」ART SPACE 煌翔 (東京)

- 2012年 「日本の70年代 1968-1986」 埼玉県立近代美術館（埼玉）
「キラリ ヒカリ ユラリ」 多摩美術大学上野毛校舎（東京）
- 2011年 「サルからヒトへ、そしてスペクタクルの社会 画像進化論 - メディア的進化と創造的退行のダイナミズム展」 茨城県立美術館（茨城）
- 2010年 「音楽と絵画 響」 秀友画廊（東京）
「えんぴつの魅力についての断想展 -官製はがきの宇宙-」 NHK 甲府放送局 NHK ハートプラザ（山梨）
「126 POLAROID -さよならからの出会い」 横浜美術館（横浜）
- 2009年 「さよならポラロイド」 ART SPACE 煌翔（東京）、カフェショコラ（京都）、ギャラリー井上（大阪）
「写真の時間」 新宿眼科画廊（東京）
- 2005年 「りんごの秘密-描かれた禁断の果実・デューラーからセザンヌ、劉生へ-」 広島美術館（広島）
- 2004年 「現代作家によるガラス絵」 秀友画廊（東京）
- 2002年 「ポラロイドの世界 -時を超えて-」 ポラロイドギャラリー（東京）
「長岡現代美術館賞回顧展 1964-1968」 新潟近代美術館（新潟）
- 1997年 「詩人によるアートフェスティバル」 アートミュージアム・ギンザ（東京）
- 1996年 「詩人によるアートフェスティバル」 アートミュージアム・ギンザ（東京）
- 1995年 「現代美術の流れ」 東京都現代美術館（東京）
「戦後文化の軌跡・映像表現の戦後」 目黒区美術館
「詩人によるアートフェスティバル」 アートミュージアム・ギンザ（東京）
「日本の実験映画」 東京都現代美術館（東京）
「Japanese Art After 1945 : Scream Against the Sky」 サンフランシスコ近代美術館（サンフランシスコ、アメリカ）
- 1994年 「Japanese Art After 1945 : Scream Against the Sky」 グッゲンハイム美術館（ニューヨーク、アメリカ）
「日常を見つめる視線」 横浜美術館（横浜）
「詩人によるアートフェスティバル」 アートミュージアム・ギンザ（東京）
- 1993年 「動く絵展」 キリンプラザ大阪（大阪）、徳島21世紀館（徳島）、名古屋市美術館（愛知）、シードホール東京（東京）、岡山県立美術館（岡山）
- 1992年 「版画3人展」 高円寺画廊（東京）
「動く絵展」 広島現代美術館（広島）、高松市美術館（香川）、横浜美術館（神奈川）
- 1991年 「ミニ・プリント展 新しい版の表現」 高円寺画廊（東京）
- 1990年 「静物」 静岡県立美術館（静岡）
「ビデオが切りとる日常」 北海道立近代美術館（北海道）
- 1989年 「映像、実験の100年」 北海道立近代美術館（北海道）
- 1987年 「日本実験映画の歴史展」 ポンピドゥーセンター（パリ、フランス）
「当世風芸術帖紙」 GALLERY360°（東京）
- 1985年 「アーティスト・ブック・ジャパン」 フランクリン・ファーンズ（ニューヨーク、アメリカ）
「現代版画の軌跡-43名の作家による戦後の版画のあゆみ」 福島県立美術館（福島）
- 1985年 「アーティスト・ブック展」 フジテレビギャラリー（東京）
「日本の前衛未来展」 ジェノバ市民ホール（ジェノバ、イタリア）
「日本実験映画20年展」 埼玉近代美術館（埼玉）
「第二回アジア美術展」 福岡市美術館（福岡）
- 1984年 「小さな小さな大展示会」 青画廊（東京）、ギャラリー安里（名古屋）
- 1983年 「BLACK & WHITE OF EXHIBITION INTERNATIONAL」 東京セントラル絵画館（東京）

- 「第二回現代芸術祭－芸術と工学」富山県立近代美術館（富山）
「国際アーティストブック展」ルミナ画廊（東京）、NHK福井ギャラリー（福井）、札幌NDA画廊（北海道）、ケンハウス（石川）、宮崎県立図書館（宮崎）
- 1982年 「第4回シドニービエンナーレ」（シドニー、オーストラリア）
「第7回イギリス国際版画ビエンナーレ」カートライトホール（ブラッドフォード、イギリス）
- 1981年 「明日の美術館を求めて」兵庫県立美術館（兵庫）
「世界の現代版画25年展」東京都立美術館（東京）、栃木県立美術館（栃木）、広島県立美術館（広島）
- 1980年 「1980年日本の版画」栃木県立美術館（栃木）
- 1979年 「リュブリアナ国際版画ビエンナーレ」リュブリアナ近代美術館（ユーゴスラビア）
「第11回東京国際版画ビエンナーレ」国立近代美術館（東京）
- 1978年 「日独ビデオ・アート展」NHK宮崎放送局ロビー
- 1977年 「現代美術の鳥瞰展」京都国立近代美術館（京都）
- 1976年 「第10回東京国際版画ビエンナーレ」国立近代美術館（東京）
- 1975年 「ビデオ・アート展」フィラデルフィア現代美術館、シンシナティ現代美術センター、シカゴ現代美術館、ワズワース・アテネウム美術館（アメリカ）
- 1971年 「APA展」映像部門秀作賞受賞

上映

- 2017年 「イメージフォーラムフェスティバル」イメージフォーラム（東京）
- 2016年 「イメージフォーラムフェスティバル」イメージフォーラム（東京）
- 2015年 「イメージフォーラムフェスティバル」新宿パークタワーホール（東京）
- 2014年 「イメージフォーラムフェスティバル」新宿パークタワーホール（東京）
- 2013年 「イメージフォーラムフェスティバル」新宿パークタワーホール（東京）
- 2012年 「イメージフォーラムフェスティバル」新宿パークタワーホール（東京）
「Possible water 〈コモンズ〉としての未来」ドイツ文化センター（東京）
「アナーバー映画祭」（アナーバー、アメリカ）
- 2011年 「イメージフォーラムフェスティバル」新宿パークタワーホール（東京）
「東京アヴァンギャルド！」代官山 山羊に聞く（東京）
「萩原葉子～出発に年齢はない～」世田谷文学館（東京）
- 2010年 「イメージフォーラムフェスティバル」新宿パークタワーホール（東京）
- 2009年 「イメージフォーラムフェスティバル」新宿パークタワーホール（東京）
- 2008年 「イメージフォーラムフェスティバル」新宿パークタワーホール（東京）
- 2007年 「イメージフォーラムフェスティバル」新宿パークタワーホール（東京）
「水の映画会」横浜美術館（神奈川）
- 2005年 「ヴィジョン・デュ・レーン映画祭」（スイス）
「山形国際ドキュメンタリー映画祭」（山形）
- 1997年 「第53回オーバーハウゼン国際短編映画祭」グッケンハイム美術館（ニューヨーク、アメリカ）
- 1996年 「日本実験映像」ニューヨーク・ミレニウム（ニューヨーク、アメリカ）
- 1995年 「日本の実験映画」調布グリーンホール（東京）
「バンクーバー国際映画祭」（バンクーバー、カナダ）
「ロッテルダム国際映画祭」（ロッテルダム、オランダ）
「イメージフォーラムフェスティバル」新宿パークタワーホール（東京）
- 1994年 「イメージフォーラムフェスティバル」西武シードホール（東京）

- 1992年 「イメージフォーラムフェスティバル」 西武シードホール（東京）
- 1990年 「90年 Japanese Experimental Films」 国際文化会館（東京）
「イメージフォーラムフェスティバル」 新宿パークタワーホール（東京）
- 1989年 「日本の映像30年史」 西武美術館スタジオ200（東京）
- 1988年 「日本の実験アニメの現在」 ○美術館（東京）
「イメージフォーラムフェスティバル」 西武シードホール（東京）
- 1987年 「ジャパニーズ・アヴァンギャルド・シネマ」 ニューヨーク近代美術館（ニューヨーク、アメリカ）
「イメージフォーラムフェスティバル」 西武シードホール（東京）
- 1986年 「第五回実験映画祭」 兵庫近代美術館（兵庫）
- 1985年 「日本映画祭」 ショーベルシネマ（シドニー、オーストラリア）
「AFI全米ビデオフェスティバル」（アメリカ）
- 1984年 「第40回オーバーハウゼン国際短編映画祭」 グッケンハイム美術館（ニューヨーク、アメリカ）
「日本のアブストラクトシネマ」 イメージフォーラム（東京）
「日本実験映像40年史」 キリンプラザ大阪（大阪）
「戦後日本の前衛美術」 横浜美術館（横浜）
「日本の実験映画」 パリ大学サンシャルル・シネマテーク（パリ、フランス）
「フリルジュ実験音楽祭」（フランス）
「エジンバラ国際映画祭」（イギリス）
「第四回オスナブリュック実験映画祭」（ドイツ）
「ロスアンゼルスオリンピック記念国際ビデオフェスティバル（アメリカ）
「萩原朔美ビデオ上映会」 JICQ PLAZA（東京）
- 1983年 「香港国際ビデオ展」（香港、中国）
「日本の実験映画1960～1980展」 全米巡回（アメリカ）
「オタワ国際ビデオフェスティバル」（オタワ、カナダ）
「カナダ国際ビデオフェスティバル」（カナダ）
- 1980年 「萩原朔美ビデオ集」 四谷イメージフォーラム（東京）
- 1979年 「日本のビデオ展」 George Paton gallery, Contemporary Art Society, Burnie Art Gallery, Wollongong City Art Gallery（オーストラリア、カナダ）
「ジャパニーズ・エクスメンタル・フィルム」 ポンピドゥーセンター（パリ、フランス）
- 1978年 「日独ビデオ・アート展」 NHK 宮崎放送局（宮崎）、真木画廊（東京）
- 1977年 「日独ビデオ・アート展—新しい認識への道」 福井県立美術館（福井）
「福岡ドイツ文化月間 ビデオ・アート展」 福岡県文化会館（福岡）
- 1976年 「ドクメンタ」（ドイツ）
「今日の空間展」 横浜市民ギャラリー（神奈川）
- 1975年 「東京展」 東京都美術館（東京）
「倫巴里社シネマテーク アンソロジー」 イタリア会館（京都）
「倫巴里社シネスラック個展」 京都大学（京都）
「WADSWORTH ANTHENEUM」（コネチカット、アメリカ）
「CONTEMPORARY ART CENTER」（オハイオ、アメリカ）
「MUSEUM OF CONTEMPORARY ART」（シカゴ、アメリカ）
- 1974年 「ビデオ・ウィーク」 アメリカンセンター（東京）
「アンダーグラウンド・シネマ新作展第三回」 安田生命ホール（東京）
「なぜ映画か？」 厚生年金会館小ホール（東京）
「異形のサークル・10人の作家達」 砂防会館ホール（東京）

- 「アメリカン・ビデオ」 アメリカンセンター（東京）
- 「第14回セント・ジュード・招待ビデオ・ショー」 サンタ・クララ大学デ・サセツト美術館（カリフォルニア、アメリカ）
- 「TOKYO - NEW YORK ビデオエクスプレス」 天井棧敷館（東京）
- 「フィルム個展」 ジャンジャン
- 「TONE FIELD4」 エスペースゼロ
- 「アンダーグラウンド・シネマ新作展第二回」 安田生命ホール（東京）
- 「1st.100 フィート フィルム フェスティバル」 イタリア会館（京都）、TFO 七ツ寺共同スタジオ（愛知）、札幌道新ホール（北海道）
- 「ビデオ／京都／1974」 ギャラリーシグナム（京都）
- 「1st.100 フィート フィルム フェスティバル」 砂防会館ホール（東京）
- 1973年 「アンダーグラウンド・シネマアンソロジー」 信州大学（長野）、神戸大学（兵庫）、TFO 七ツ寺共同スタジオ（愛知）
- 「COMMUNING」 天井棧敷館（東京）
- 1973年 「個人映画アンソロジー」（静岡）
- 「アンダーグラウンド・シネマ新作展第一回」 安田生命ホール（東京）
- 「アンダーグラウンド・シネマテーク No.37 萩原朔美8ミリ小品集」 天井棧敷館（東京）
- 「アンドレキノ 日本編」 紀伊国屋ホール（東京）、イタリア会館（京都）
- 「CROSSROADS FILM」 アメリカンセンター（東京）
- 「シネマテーク」 阿佐ヶ谷美術学園（東京）
- 「アンダーグラウンド・シネマテーク No.33 フィルム・エキシビジョン 4人展」 天井棧敷館（東京）
- 1972年 「アメリカの映像作家」 アメリカ文化センター（神奈川）
- 「開かれた網膜・わしづかみの映像＝ビデオ・ウィーク」 アメリカンセンター（東京）
- 1971年 「ビデオコミュニケーション」 ソニービル（東京）
- 「FORUM POUR UNE AVANTGARDE」 アテネフランセ文化センター（東京）
- 1968年 「フィルム・アンデパンダン」 天井棧敷館（東京）

上演

- 2006年 「山月記」 鉄仙会能楽研修所舞台（演出）
- 1992年 「オペレッタ 注文の多い料理店」 日暮里サニーホール（演出）
- 1991年 「オペラ千恵子抄」 日暮里サニーホール（演出）
- 1990年 「弱法師」 三百人劇場（演出）
- 1989年 「オペラ千恵子抄」 草月会館ホール（演出）
- 1988年 「葵上」 三百人劇場（演出）
- 1986年 「サティール・サーカス風演出によるシェークスピア」 渋谷パルコ スペースパート3（演出）
- 1985年 「ホス」 パルコ西武劇場（演出）
- 1984年 「時代はサーカスの象にのって」 渋谷パルコ スペースパート3（演出）
- 1967年 「青森県のせむし男」 草月会館ホール・アートシアター新宿文化（天井棧敷旗揚げ公演、出演）
- 「大山デブコの犯罪」 新宿末広亭（舞台監督）
- 「毛皮のマリー」 アートシアター新宿文化（欣也役）
- 「花札伝綺」 草月会館ホール（演出助手）
- 1970年 「毛皮のマリー」 名古屋モダン緑日演芸場（演出）

- 「時代はサーカスの象にのって」神戸芦屋ルナホール（演出）
「ミュージカル僕がうたうとき フォーリーブスリサイタル」日生劇場（演出）
「書を捨てよ町へ出よう」神戸ルナホール（演出）
- 1969年 「星の王子さま」アートシアター新宿文化（演出助手）
「時代はサーカスの象にのって」天井桟敷地下劇場（演出）
「毛皮のマリー」ドイツ フランクフルト（国際実験演劇祭招待作品、演出）
「犬神」ドイツ フランクフルト（国際実験演劇祭招待作品、出演）
「書を捨てよ町へ出よう」名古屋モダン緑日演芸場・京都新聞会館ホール・札幌パークホテル大ホール（演出）
- 1968年 「新宿版千一夜物語」新宿厚生年金会館小ホール（演出助手）
「新宿ユリシーズ」3月新宿モダンアート
「伯爵令嬢小鷹狩鞠子の七つの犯罪」日仏会館ホール・新宿厚生年金会館小ホール（演出）

受賞

- 1971年 APA映像部門秀作賞
1976年 長岡現代美術館賞受賞
1996年 NHK局長賞 - NHKハイビジョン「彫刻家 流政之の世界」
1997年 オーバーハウゼン国際短篇映画祭入選

所蔵

- 東京都現代美術館
栃木県立美術館
横浜美術館
長岡現代美術館
前橋文学館
武蔵野美術大学
東北芸術工科大学
九州工芸大学
神戸芸術工科大学
福岡市総合図書館
いづなアップルミュージアム
徳島文化の森